町立図書館おすすめ

図書館においてある本の中から
おすすめのものを選びました。
バラエティに富んだ本を紹介します。

Pick Up New publication

BOOK

SASUE LIBRARY

町立 指江図書館

TEL0996-88-6500

「やる気な自分が戻ってきました」
わたなべぽん 著

「先のばし」生活を脱出し、「いい一日だった！」という日々が来るまでの奮闘を描いた実録です。

TAKANOSU LIBRARY

町立 鷹巣図書館

TEL0996-86-1111

「くぅとしの」
晴 著

柴犬しののそばには、いつもしのを大好きなくぅの姿がありました。

長島文芸

Nagashima Bungei ながしまぶんげい

長島短歌会

体調の優れぬわれは寄る辺なく心細さに夜もすがら覚む　中山タマエ
デイケアの窓辺に舞ひ来る柿の葉の紅冴へて秋深まりぬ　浜田美代子
吾の卒寿祝ひて寄りしうから等の世代違へばうとうと眠し　浜畑　松枝
味見してわれは驚く今炊きし栗飯の美味きを亡夫に供ゆる　松元　睦子
朝寒の広場に潮の香吹き上げて友らは桜の枯葉掃き寄す　岩下　ち江
果てしなく煌めく海原を岡に見つ山影明るし反射及びて　樫平　頼子
輪禍にて身すがらの友逝きし通夜寄りくる犬を撫でつつ通る　米尾　和子
捨つるべきは捨ててすがしき押し入れを秋の一日開け放ちおく　坂之下典子

明神俳句会

病む妻へ機嫌よき日の障子張る　淵脇　護
仕舞湯の母にやさしき虫時雨　白男川孝仁
表札のローマ字表記や萩の花　迫口　君代
満月を愛でて夜勤の門扉閉む　関　喜久雄
星月夜いつもの席に三百回　二階堂妙子
彼岸花傾しままの農機小屋　山嵜加代子
障子張る母屋に灯る豆電球　関　佳代美
行き戻り夫の墓舞うあきつかな　坂口　静子
菊の香や三百回は道半ば　大堂　正弘
秋風に愛犬の鼻ヒクヒクす　肥後　広行
秋風を聞きわけしかな犀の耳　脇田　武志

創世短歌会

仲秋の名月つれて旅に出る　二階堂恵子
障子貼るまずは仏間の十二枚　大堂　早苗
めし碗の縁にて卵割りており一つの命を頂く重み　竹之内重信
水道を止め忘れるが争いの因にてあわれ声あららぐる　宮元　司
肌寒くそろそろおでんが恋しいと言えば夜にはおでんとなりぬ　野村　益信
病室に差入る夕日さえぎらず夕日といえど有難くして　石原百合子
昔なら贅沢なりし卵かけごはんにしよう一人の昼餉　村上　義彦
花作り野菜作りに老い果てて自慢をすれば智恵行き止る　大塚　洋子
魚一尾跳ねて生まれし水の輪が岸の方へと広がりゆけり　山下　学

一般作品

［短歌］
柿熟れしカラス八羽がいっせいにツツキ落として　小林　貢
庭はオレンジ
道端の凋れし草に人知れずさっと一陣秋は来にけり　小林　如月
花をめで花のかずかず見れてると何を望まん足らう明け暮れ　中仮屋辰子
病室の親友はこつそりビール出し迎えてくれし見舞いの我を　母木　良平
年取ると子供心に成る事よ言葉やさしく有難い心　町田　末則

［俳句］
秋に入り竹ホーキの音リズミカル　宗方　清明